

「みえの現場・すこいやんかトーク（伊勢市）」の概要

【トーク参加者】

8月6日（土）伊勢市で、厚生地区まちづくりの会の皆さん23名の方と意見交換をしました。

厚生地区まちづくりの会の皆さんは、伊勢市の厚生区域内（7町）に居住する住民、自治会、事業所、各種団体が会員になって、地区住民自ら地区の将来像を考え、その実現に向けて行動するとともに、いきいきと安心して暮らせる住みよいまちづくりを目指しています。その活動の一環として、避難所開設訓練など避難所に重点をおいた防災対策などにも取り組んでおられます。

【参加者の発言】

参加者の皆さんから、以下のような意見をいただきました。

防災訓練をしても、参加率が低い。住民意識の問題がある

伊勢市は南北間の道路がない。防災面でも問題がある

プライバシーの関係で、住民の把握が困難になっている

自助、共助、公助とあるが、公助との連携の場が必要に思う

地区の高齢化が非常に進んでいる。訓練を行っても参加率が低い

地震防災読本に3秒、3分、3時間、3日とあるが、何をすべきか具体的に考える必要がある



【知事の発言】

知事からは、以下のような発言がありました。

9月に緊急地震対策をお示しする準備をしている

津波の浸水調査をはじめ、避難経路、住宅の耐震化など、自助と共助の部分は早く対策を立てていきたい

避難誘導標識の設置、高台がないところで民間ビルへ外付け階段を付けるとか、避難所の備蓄、情報の途絶えに備えた衛星電話の整備などを進めたい

年内にまとまる国の災害想定をふまえ、県の「新地震計画」として、道路や海岸堤防、医療や帰宅困難者対策など自助・共助に加えた対策を進めていきたい